



政務活動費交付請求書

令和 7年 11月 7日

四日市市長

会 派 名 公明党

代表者氏名 中川 雅晶



四日市市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第4条第1項の規定に基づ

き、令和 7年 10月分政務活動費の交付を次のとおり請求します。

1 請 求 額 93,625 円

2. 政務活動費の対象となる経費

区 分	金 額	備 考
調 査 研 究 費	55,900	
研 修 費	15,500	
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費	22,225	
合 計	93,625	

※概算払・前金払がある場合は、備考にその別を記載すること。



経理責任者
本林

内 訳 明 細

7年 10月分 No. 2

区 分	金 額	内 容
調 査 研 究 費	55,900	10/9-10 都城市視察
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	55,900	

※支出に係る領収書その他の証拠書類を添付すること

(調査研究、研修、要請・陳情活動、会議) 旅 費 明 細

会 派 名	公明党							
参加者氏名	樋口博己							
用務先	都城市							
実施日	令和7年10月9日 (木) ~ 令和7年10月10日 (金)							
目 的	視察							
月日	発 着	路 程	路線	運 賃	特・急行料	特別料金	宿泊手当	(包括)宿泊費
10/9	近鉄 四日市 ~ 名古屋	36.9 KM	近鉄	760 円	520 円	円	(1泊目)	(1泊目)
	名古屋 ~ 中部国 際空港	39.3 KM	名鉄	980 円	円	円	朝食付	宮崎県
	中部国 際空港 ~ 宮崎 空港	599.0 KM	航空機	37,780 円	円	円	1,600 円	12000 円
10/10	宮崎 空港 ~ 中部国 際空港	599.0 KM	航空機	↓ 円	円	円		【上限額】
	中部国 際空港 ~ 名古屋	39.3 KM	名鉄	980 円	円	円		(17,000 円)
	名古屋 ~ 近鉄 四日市	36.9 KM	近鉄	760 円	520 円	円	(2泊目)	(2泊目)
	~	KM		円	円	円	食事プランを選択	都道府県を選択
	~	KM		円	円	円	0 円	円
	~	KM		円	円	円		【上限額】
	~	KM		円	円	円		(0 円)
	~	KM		円	円	円	(3泊目)	(3泊目)
	~	KM		円	円	円	食事プランを選択	都道府県を選択
	~	KM		円	円	円	0 円	円
	~	KM		円	円	円		【上限額】
	~	KM		円	円	円		(0 円)
小 計				41,260 円	1,040 円	0 円	1,600 円	12,000 円
合 計				55,900				

※精算

	運 賃	特・急料	特別料金	宿泊手当	(包括)宿泊費
精 算 額	円	円	円	円	円
差 引 額					
過 不 足 の 理 由					

領収書

下記の金額正に領収いたしました。
四日市市議会樋口博己様

領収金額 37,780円
10%対象 37,780円 (消費税額 3,435円)
クレジットカードにてお支払い

内訳

・搭乗者様 ヒグチ ヒロミ様
・航空券情報 区間1: 10月09日 9:30-10:50 名古屋(中部)-宮崎 ANA2507 ANA SUPER VALUE 75
区間2: 10月10日 13:45-15:05 宮崎-名古屋(中部) ANA4690 ANA SUPER VALUE 55

項目	金額	備考
航空券代金(区間1)	11,240円	(10%)
航空券代金(区間2)	13,640円	(10%)
手配手数料(区間1)	4,500円	(10%)
手配手数料(区間2)	4,500円	(10%)
事務手数料	4,000円	(10%)
手荷物料金	0円	(10%)
今すぐクレジットカード決済特別割引	△100円	(10%)
10%消費税対象金額合計	37,780円	(10%)

項目	金額	備考
保険料	0円	(課税対象外)

支払総額 37,780円

但し
トラベリスト受付番号 国内航空券代金として 64Z7KZ2P7PS6
発券日 (課税資産の譲渡等を行った年月日) 2025年07月08日
発行所 株式会社アップルワールド
登録番号 T8013301000593



お勘定書
STATEMENT

ホテルJALシティ宮崎

〒880-0001

宮崎県宮崎市橋通西4-2-30

TEL:0985-25-2580 FAX:0985-25-2833

事業者番号:T5350001000190

お名前 樋口 博己 様

お部屋番号 813 ご人数 1

ご到着 2025/10/09 ご出発 2025/10/10

日付	ご明細	部屋番号	料金	お支払等	備考
10/09	◇宿泊代 (朝食付き)	813	12,000		

ご請求金額 12,000

○料金のほかに10%のサービス料と消費税が加算されております。

○領収印のある明細書は領収書を兼ねております。

◇この請求書を仕入税額控除の確証としてご利用いただけます

■消費税課税対象外

◎その他

10%対象 12,000 (消費税 1,090)



発行番号 100901147658 C 1 2 1 M PA AL
25/10/09 16:45 328

ご署名

領収書

2025/10/09 100901147658

お名前 樋口 博己 様

金額 ¥12,000-

但し ご宿泊代として

収入
印紙

上記金額正に領収致しました。

ホテルJALシティ宮崎

宮崎県宮崎市橋通西4-2-30

TEL:0985-25-2580 FAX:0985-25-2833

公明党 樋口博己 10/9(木)～10/10(金) 視察行程

・視察先:南国興産株式会社 宮崎県都城市高城町有水 1941

農畜産分野の資源循環社会について

・視察対応者:代表取締役社長 弓削昭男 様 他2名

・10/9(木)

セントレア 9:30 発⇒宮崎 10:50 着 ANA2507 便

11:20 空港で、南国興産(株)車にてお迎え、移動

・視察時間:13:30～16:30

事務所で全体的な説明を受け、

レタリング工場、肥料工場、食用油脂工場、発電ボイラー等の現場を
視察したのち

再度、事務所で質疑応答を行う

・視察後

南国興産(株)車にて、ホテルへ移動 17:30 着・チャックイン

・10/10(金)

宮崎 13:45 発⇒セントレア 15:05 着 ANA4690 便

実施日時：令和7年10月9日(木)13:00~15:30

参加者氏名：樋口博己

視察場所：宮崎県都城市南国興産株式会社

視察内要：農畜産分野の資源循環社会について

視察対応者：代表取締役 弓削昭男
専務取締役 郡 義博



◎目的

市内には、食肉市場・食肉センターがあり市内及び近郊では、食肉用として多くの豚や牛が飼育されている。家畜からは日々多くの糞尿が排出されており、事業者自ら糞尿をたい肥化して農家に提供しているところもある。しかし、その処理の手間とコストが掛かっている。食生活に欠かせない畜産業者が持続可能となるよう、糞尿処理事業の構築が必要であると考え、南国興産へ視察に伺った。

◎内容・報告

南九州では鳥・豚・牛の畜産業が黎明期であった、昭和48年に南国興産は創業した。その後日本の食生活が豊かになるにつれて食肉の消費量は増大していく中で、南九州は日本有数の畜産物生産基地となっていた。それに伴って、畜産副産物の量も増大していった。また一方で環境対策や「BSE」等の法的規制が進み、地域の畜産農家は厳しい安全対策を迫られ、日々多くの家畜排せつ物処理が課題となり、中でも鶏糞は増加の一途であった。

畜産業が処理に困った副産物全てに対応していくとの経営理念の元、S60年に40t/日の鶏糞をボイラーの燃料(重油の代わりに)として活用して、発電する設備を構築した。その後も鶏糞の集荷量の増大に対応すべく、畜糞発電ボイラー1号機・2号機(各300t/日)を増設していった。(工場内のほぼ全量のエネルギーをカバー)

養鶏業者は、鳥を出荷してから鶏糞を処理する期間が必要であったが、南国興産が計画的に受け入れすることで処理する期間が大幅に短縮され、安定した経営ができるようになり、更に鳥の出荷量増に繋がった。

鶏糞の燃焼灰は、リン酸と加里の含量が高い良質な肥料となるため、その多くを中国へ輸出している。

畜産副産物は糞尿が多くであるが、牛では 40～50%は食べられていないため、皮革・骨・内臓等もできる限り活用し、そのほかは焼却し、すべて処理している。



発電ボイラーの燃料となる鶏糞ピット

◎所感

南九州地域では鶏糞が多く発生しており、よく燃えるボイラーの燃料(乾燥作業が必要ない)として活用されており、事業性が成り立っていると状況であった。しかし、四日市市及び近隣地域では鶏糞はほとんどなく、豚・牛糞であるため乾燥作業が必要であり、この作業コストが課題であると感じる。

また、この事業の一番のポイントは、糞尿の年間を通して安定的な量を確保することだと感じた。その上で新たにこのプラントを立ち上げるとなると、周辺に対して匂いや搬入車両等の課題があるため、設置場所を工夫することも重要である。

様々な課題はあるが地域の食肉文化を守るためには、畜産物の生産から副産物処理まで一貫したサイクルを構築する必要がある。現在は、各畜産事業者が対応しているが将来的には、南国興産のような規模ではないが全般的に副産物処理できる事業を立ち上げなければならないと感じた。

内 訳 明 細

7年 10月分 No. 5

区 分	金 額	内 容
調 査 研 究 費		
研 修 費	15,500	10/23静岡市シンポジウム 参加
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	15,500	

※支出に係る領収書その他の証拠書類を添付すること

(調査研究、研修、要請・陳情活動、会議) 旅 費 明 細

会 派 名	公明党						
参加者氏名	森 智子						
用務先	静岡市						
実施日	令和7年10月23日 (木)						
目 的	農研シンポジウム受講						
月日	発 着	路 程	路線	運 賃	特・急行料	特別料金	宿泊手当 (包括)宿泊費
10/23	近鉄 四日市 ~ 名古屋	36.9 KM	近鉄	760 円	520 円	円	(1泊目) (1泊目)
	名古屋 ~ 静岡	185.8 KM	JR	3,410 円	3,060 円	円	食事プランを選択 都道府県を選択
	静岡 ~ 東静岡	2.5 KM	JR	↓ 円	円	円	0 円 円
	東静岡 ~ 静岡	2.5 KM	JR	3,410 円	円	円	【上限額】
	静岡 ~ 名古屋	185.8 KM	JR	↓ 円	3,060 円	円	(0 円)
	名古屋 ~ 近鉄 四日市	36.9 KM	近鉄	760 円	520 円	円	(2泊目) (2泊目)
	~	KM		円	円	円	食事プランを選択 都道府県を選択
	~	KM		円	円	円	0 円 円
	~	KM		円	円	円	【上限額】
	~	KM		円	円	円	(0 円)
	~	KM		円	円	円	(3泊目) (3泊目)
	~	KM		円	円	円	食事プランを選択 都道府県を選択
	~	KM		円	円	円	0 円 円
	~	KM		円	円	円	【上限額】
	~	KM		円	円	円	(0 円)
小 計				8,340 円	7,160 円	0 円	0 円 0 円
合 計				15,500			

※精算

	運 賃	特・急料	特別料金	宿泊手当 (包括)宿泊費
精 算 額	円	円	円	円
差 引 額				
過 不 足 の 理 由				

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

令和 7年 11月 7日

実施日時	令和 7年 10月 23日（木） 13時 30分～16時20分
参加者氏名	森 智子
用務先	静岡市
対応者	別紙のとおり
目的・内容	別紙のとおり
成果・所感	別紙のとおり

資料別添付

研修 報告書

令和 7 年 11 月 7 日

実施日時 令和 7 年 10 月 23 日(木) 13 時 30 分～16 時 20 分

参加者氏名 森 智子

用務先 静岡市

対応者 農研機構 果樹茶業研究部門 佐藤安志
農林水産省 農産局果樹・茶グループ課長補佐 河合智之
農研機構 果樹茶業研究部門 枕崎調整役 吉田克志
カワサキ機工株式会社 開発部 次長 鈴木智久
農研機構 本部 みどり戦略チーム長 山田龍太郎

目的 茶は、有機栽培の面積比率が4.6%と高く、日本の有機 JAS 取得農地の8.2%が茶園であり、その面積は年々増加している。海外でも日本産の有機栽培茶のニーズが高く、有機栽培茶の増産と有機同等性による輸出拡大が期待されている。その反面、茶の有機栽培は、雑草の繁茂、有機質資材の肥効が不明確、病害虫多発など、品質や収量を不安定にするリスクがあり、新規参入や規模拡大の障壁となっている。これらの対策のため、収益性の高い、有機栽培茶の持続的安定生産技術の確立に向けた取り組みを学び、本市でも活用できないかを考える。

内容 ◎茶の有機栽培をめぐる情勢

- ・わが国におけるお茶生産の位置付け 荒茶段階での生産規模は 730 億円
令和 6 年の荒茶生産量は、鹿児島県が統計開始以来、初の日本一となる。
- ・お茶の消費動向 リーフ茶の消費量は減少傾向の一方、簡便化志向等で緑茶飲料の消費量は増加傾向
- ・お茶の生産動向 高齢化と後継者不足が原因で栽培面積は緩やかに減少、需要の高まっているてん茶の生産は増加傾向
- ・茶産地の現状 年齢別基幹的農業従事者は年々減少、主要産地 5 県の中でも特に、三重県の農家数は減少が進み、平成 12 年と令和 2 年を比べると、12%に減少
- ・お茶の輸出入の動向 緑茶飲料向けとして平成 16 年まで輸入が増加していたが、その後、緑茶飲料用原料の国産割合が高まったことから、輸入量は

減少、輸出は、米国等の日本食ブームの影響や健康志向の高まりによって、この10年間で約2.5倍強に増加、

・お茶の輸出実績 抹茶を含む粉末茶の需要が拡大し、令和6年の緑茶の輸出額は過去最高の364億円、令和7年も8月までで380億円と伸びている

・形状別のお茶の輸出実績 粉末状の緑茶の輸出量が多い、輸出単価も抹茶を含む粉末状の緑茶の方がリーフ茶などのその他の緑茶よりも約2.2倍高い、中でも有機栽培の抹茶は高い、

・有機栽培茶の輸出 日本では有機同等性を諸外国と締結しているので、いちいち認証制度をとる必要がない、この仕組みを活用した有機茶輸出数量は増加傾向、特にEU、英国向けでは、全輸出量の7割以上が有機栽培茶である

◎今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向

・様々な課題がある中で、今後のお茶の文化の振興に関する方向は、てん茶や有機栽培など需要の変化に対応した生産、生産者の減少に対応した生産性の一層の向上、海外需要開拓等による輸出のさらなる拡大、多様な消費者層に向けた魅力・情報発信等による消費の拡大、文化に関する理解増進等の取組を推進する。

◎茶業の振興のための施策

<輸出拡大など需要の変化に対応した生産性の高い茶生産の推進→てん茶の被覆栽培、ロボット茶園管理機>

・有機栽培への転換の推進

耐病虫性品種の開発・導入や良質で効率的かつ安定的な有機栽培を行うための技術開発・栽培体系の確立を推進する

関連する事業者や住民の地域ぐるみでの取り組みを推進する

・改植・新植の推進

改植・新植に当たっては、有機栽培茶などの需要に対応するため、被覆条件下でも多収で色沢・滋味に優れた「せいめい」等の被覆適正品種や、病害虫抵抗性を有し「やぶきた」に比べて多収な「かなえまる」などの品種導入を推進する

・需要の変化に対応した品種・技術の開発・導入

てん茶や有機栽培茶の需要の高まりを受け、耐病虫性のある品種の開発・導入を推進、てん茶や有機栽培茶の品質向上に向けた栽培・加工技術の開発・導入を推進

・自然災害や気候変動等のリスクへの備えの推進

「みどりの食料システム戦略」に基づき、化学肥料や化学農薬の使用低減、

有機栽培への転換など、環境負荷低減の取り組みを推進する

◎茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験

・有機栽培の課題は、品質や収穫が不安定なこと、3割も減になる。安定生産のための研究

・茶園用の除草機の開発(これは、うねの間と樹冠下部と両方で除草ができる)

これにより、除草にかかる時間を50%削減できる

作業能率は10aを40分で可能となる

・気象や土壌条件に応じた適切な管理が難しい→慣行と有機では、土壌が違うので、有機栽培始める際には、土壌診断が必要

・防除については、天然の薬剤を2種類セットで2回散布することで可能である

・品種開発→さえあかり、せいめいは有機抹茶に適している。あさのかは炭疽病に強い。やぶきたでは有機栽培しても収益向上の期待はできない。

◎蒸気を利用した有機茶スマート管理システム

低温蒸気散布により、茶芽に障害を与えず、害虫の活性化を低下させる新たな新芽害虫防除技術の研究と、雑草対策として蒸気を利用した除草方法を適用した作業機の開発、これと連動した茶栽培管理システムを開発することによって、収量、品質ともに高いものにする

この作業機によって、作業時間の短縮、人件費の削減に寄与できる

そして、慣行栽培と変わらない効果もあり、1年目より2年目の方が雑草減少の効果もある

所感

三重県内でも南部ではすでに有機栽培に力を入れ始めているが、本市においては、畑面積がそれほど広大でもなく、集約されているところばかりではない、という点で、有機栽培は到底無理であろうと思っていた。しかし、今回のシンポジウムにおいて少しでも有機栽培の良さ感じることができればと参加した。すでにさまざまに有機栽培茶の収量安定にむけた取り組みや研究が進められていることを知り、未来に向けて一筋の光を得たようだった。しかしながら、乗用機械など大型の作業機にはコストもかかるため、今後いかに仲間同士の連携を図れるかが必要とも感じた。

本市のかぶせ茶は、やぶきたの品種が多いが、この品種では有機栽培には向かず、被覆栽培でも化学肥料使用料の削減が可能な、かなえまるの品種がやぶきたの代替品種として有望であることも、今後取り組もうとすれば有効である。本市の特産かぶせ茶を今後たくさんの方に飲んでもらい、盛り上げていけるよう力を尽くしたい。

農研機構シンポジウム 「未来茶業・有機茶研究会キックオフシンポジウム」

主催：農研機構果樹茶業研究部門

共催：「知」の集積と活用「未来茶業」研究開発プラットフォーム、
農研機構植物防疫研究部門

日時：令和7年10月23日（木）13：30～16：20

場所：静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）11階 会議ホール・風

<プログラム>

- | | |
|-------|---|
| 13：15 | 開場（予定） |
| 13：30 | 開会あいさつ
佐藤安志（農研機構） |
| 13：40 | 茶の有機栽培をめぐる情勢
河合智之（農林水産省） |
| 14：00 | 茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験の概要説明
吉田克志（農研機構） |
| 14：30 | 蒸気を利用した有機茶スマート管理システム
鈴木智久（カワサキ機工株式会社） |
| 15：00 | 「グリーンな栽培体系加速化事業」における秦野の取組
山田龍太郎（農研機構） |
| 15：20 | 舞台アレンジ配置変更・休憩 |
| 15：30 | 総合討議 |
| 16：15 | 閉会挨拶 |
| 16：20 | 閉会 |

未来茶業・有機茶研究会の設立趣旨

1. SA1-112E2 茶スマ農有機プロ、農研機構 NARO プロ 7 および府県公設試等で開発・公表された茶の有機栽培に関する技術の情報発信と情報収集のための研究会として設立する。
2. 研究会は「知」の集積と活用場の 未来茶業研究開発プラットフォームに設置することとし、研究会の呼称は未来茶業・有機茶研究会とする。
3. 研究会の会長は果樹茶業研究部門茶品種育成・生産グループ長、事務局は果樹茶業研究部門茶業連携調整役とする。
4. 会員は生産者、実需者、民間企業、公設試、公的機関等から構成される。
5. オープンで縛りのない研究会を基本とし、入会者の義務や制約は設けない。
6. 未来茶業・有機茶研究会を中核として、参画者による講演会、Web 講演会、現地研究会等を開催することで、広く茶の有機栽培に関する技術の普及に努める。
7. 未来茶業・有機茶研究会の参画機関が研究会内でコンソーシアムを結成し、プロジェクト等に応募する場合、コンソーシアム内で情報を管理し、会員への情報公開は行わない。

講演要旨

茶の有機栽培をめぐる情勢

農林水産省 農産局果樹・茶グループ課長補佐 河合智之

近年、健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に、欧米や東南アジアを中心として抹茶を含む日本茶の需要が拡大し、令和6年の緑茶の輸出額は過去最高の364億円を記録した。令和7年も1月から8月までの輸出額が380億円となり、昨年を上回るペースで輸出が拡大している。こうした中で、有機栽培茶は海外でのニーズが高く、同時に残留農薬基準をクリアする可能性も高いことから、輸出に適していると評価されており、茶の有機 JAS 格付実績や有機栽培茶の輸出数量は増加傾向にある。特に、有機認証制度の同等性の仕組みを活用した有機栽培茶の輸出は、令和6年において米国向け輸出量の約65%、EU・英国向けの約75%に達している。本講演では、有機栽培茶の生産・輸出の現状、令和7年4月に農林水産省が策定した「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」における茶の有機栽培の位置付け等を含め、我が国の茶の有機栽培をめぐる情勢について報告する。

茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験・研究概要

農研機構 果樹茶業研究部門 枕崎調整役 吉田克志

農林水産省は2025年4月に「新たな茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」を策定し、てん茶や有機栽培など需要の変化に対応した生産、輸出の更なる拡大に向けた方針等が示された。日本茶輸出が年々増加する中、有機JAS認証の有機茶の安定生産と輸出拡大が必須となっている。農研機構は、民間企業、大学、公設試、生産者とコンソーシアムを結成し、「茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験（2022～24年）」のプロジェクト研究に取り組んだ。本講演では、茶の有機栽培の課題解決に資するコンソーシアムの研究成果を紹介する。また、茶の有機栽培を支援するため、今年からスタートする「未来茶業・有機茶研究会」の設立趣旨ならびに、今後の活動方針について紹介する。なお、本研究は生研支援センター「戦略的スマート農業の開発・改良」（JPJ011397）の支援を受けて行いました。

蒸気を利用した有機茶スマート管理システム

カワサキ機工株式会社 開発部 次長 鈴木智久

近年増加傾向にある有機栽培茶生産者からの機械開発要求として、「新芽害虫対策」と「雑草対策」に対する機械化の要望の声を多くいただいています。これら市場ニーズに対し、製茶機械で活用されている「蒸気」の技術利用に着目し、「新芽害虫対策」・「雑草対策」の両方の問題を解決する複合作業対応型の茶園管理機の開発を目指しました。新芽害虫被害に対して茶葉に障害を与えない低温蒸気散布により害虫の活性を低下させる新たな新芽害虫防除技術の研究、雑草対策として蒸気を利用した除草装置の効果検証、作業機の運用には栽培管理効率化を目的とした従来の栽培管理体系と蒸気を利用した新技術を組み合わせた栽培管理システムの活用、について試験機による実証試験を行いましたので紹介します。なお、本研究開発は農研機構・生研支援センター委託事業「戦略的スマート農業技術等の開発・改良」（2022～2024年度）の支援を受けて行いました。

「グリーンな栽培体系加速化事業」における秦野の取組

農研機構 本部 みどり戦略チーム長 山田龍太郎

農林水産省が推進する「みどりの食料システム戦略」に対して、農研機構では研究技術面からのサポートを実施しており、今回はその中から、今年度より開始した「神奈川県秦野市」での茶の事例について紹介します。本事例では減農薬・有機農業の面積拡大を目的として、病害虫複合抵抗性品種「せいめい」、「かなえまる」の栽培実証を行っています。「せいめい」はこれまで普及が進んでいなかった寒冷地で、「かなえまる」は新品種であることから新たな事例創出に取り組んでいます。農研機構では本実証地を拠点として、更に他地域への品種普及を目指しており、本品種を導入いただける地域においては、農研機構のサポートが可能ですのでご一報いただければ幸いです（一部条件がございます）。

総合討論 「持続可能な茶の有機栽培とは」

司会：農研機構 果樹茶業研究部門 枕崎調整役 吉田克志

パネリスト：河合智之（農林水産省）、鈴木智久（カワサキ機工）、山田龍太郎（農研機構）

廣野祐平（農研機構） 水上智道（農研機構）、山田憲吾（農研機構）、萬屋宏（農研機構）

日本茶輸出が年々増加する中で、有機栽培茶のニーズが増えている。これに応えるために、茶の有機栽培の拡大が必要とされるが、様々な技術的な課題を解決する必要がある。今回の総合討論では、持続可能な茶の有機栽培を行うために、必要な技術や残された課題について、意見交換を行い、今後の茶の有機栽培の技術の開発と普及について検討する。

内訳明細

7年 10月分 No. 6

区 分	金 額	内 容
調 査 研 究 費		
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費	20,031	コピー機リース料・カウ ント料10月分
	2,194	コピー用紙代
合 計	22,225	

※支出に係る領収書その他の証拠書類を添付すること

領収証

四時市議会 公明党 様

No. 1921

金額	¥	20031
----	---	-------

但し入料 ¥14,090 かみ料 ¥5941

2025年10月24日 上記正に領収いたしました

内訳

現金	/
小切手	/
手形	/
消費税額等 (%)	
コード 04-370	

T8-1900-0101-5129



株式会社
エスエルエフ
ヘアを創造する
 〒510-0074 四日市市鶴の森一丁目14番11号
 TEL.059-353-8871(代)
 FAX059-353-8111(代)

領収証

四日市市議会 公研党 様

¥2,194-

但し、商品代(43円)及び消費税額(199円)を含みます

(明細部分の*印は軽減税率(8%)適用商品です)

DCM株式会社 DCM 四日市店
TEL 059-351-0164
保管いただく場合は印刷面を内側に折って保管願います

2025年10月20日(月)

010215-0001-5676
登録番号 T7010701069115

--- 印刷上更正月米田 ---

2025年10月20日(月)11:38 15*0001

016 DCM 卓上解さかコピー用紙

(¥1,097×2コ)

¥2,194

¥199

(¥108対換額)

(¥199)

¥5,204

¥3,010

お買上消費税 2割

*印は軽減税率(8%)適用商品です

◆印は免税軽減率の換算商品です

DCMアプリでお買い物を便利に!

アプリ検索機能



15-TNo5676

店No010215